

法士会報

発行所：法政大学デザイン工学部
都市環境デザイン工学科 同窓会
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-33
TEL・FAX (03) 5228 1406
発行人 宮下清栄
編集人 会報編集委員会

会長メッセージ

都市環境デザイン工学科同窓会（法士会）会長 宮下清栄（1980年院修了）



コロナ、コロナで2年も過ぎようとはパンデミックの恐ろしさを改めて認識しています。仕事も講義もリアルからオンラインに変更になり、当初の違和感も払拭され上手く両立していることと存じます。多くの同窓生がリモートによる仕事を経験したことと存じます。

リモートワークのみで完結する人は住む場所を選ばない働き方が定着してきていることに驚きと共に感慨を覚えます。30年ほど前、「自由時間都市研究会」で今後情報技術が進展したらサテライトオフィスやホームオフィスが盛んになると考えて研究活動を行いました。残念ながらあまり進展しませんでした。日本ではまだまだアウトプットのみでの評価は難しくまた顔を合わせることによる「場味」がまだまだ尊重されているためのものでした。このようなこと

がコロナにより一瞬にして転換するとは想像もつきませんでした。住んでいる地域でも都心から移住してくる人が増えています。東京一極集中から東京「圏」集中に変化の兆しがあるかええます。ライフスタイルの多様化に首都圏郊外部も新たなまちづくりの方向性を打ち出す必要があると思います。2018年に都市における新たな用途地域として「田園居住地域」が制定されました。住宅と農地の調和した新しい田園都市の再構築を考えていきましょう。

コロナが収まりかけた10月にキャリアデザインセミナーを対面で実施できたことは学生たちの進路選択に役立ったと自負しています。ご協力いただいた先生方と同窓生に改めて御礼申し上げます。また、初の試みとしてリモートで企業が参加する実験も行いました。課題もありましたが今後遠距離の同窓生の参加を促す手段としてハイブリット形式で実施するめどが立ちました。持続可能な同窓会とは？と悩んでおり、これらも一手段になるのかと考えておりますが、いろんなご意見をお願いいたします。

学部長メッセージ

デザイン工学部のこれから

法政大学デザイン工学部長／都市環境デザイン工学科 教授 福井恒明



を持っています。このことが理系学部のひとつとして、また市ヶ谷文系学部との連携による幅広い活動を可能にしています。

2021年10月にHOSEIミュージアム・サテライト小金井が小金井西館1階にオープンしました。法政理系学部の歴史と分野がパネルや映像で表現されています。特にキーワー

ド展示はそれぞれの研究者の専門分野を人間・環境・もの・生命・情報・数理の軸のもとに展開して可視化したものです。HOSEIミュージアムはキャンパス内のスペースとウェブ上を使った新しいタイプの情報発信です (<https://museum.hosei.ac.jp>)。

文系学部との連携は、学部横断的学習プログラム「アーバンデザインサーティフィケート」「SDGsサーティフィケート」などで実施しています。サーティフィケートとはテーマに関連する科目を全学からリストアップし、一定数の科目を履修した学生に修了証明証を与えるものです。解決すべき社会的課題が理系文系という枠組みを超えて行く中で、法政大学全体として学生に分野横断的思考を提供する試みです。

デザイン工学部では、自らの領域を深化させながら関連分野と連携できる人材の輩出が重要であり、そのためのプログラムの充実を図っていきたく考えています。

教室からの報告

オンラインを活用した賢い授業運営

都市環境デザイン工学科 学科主任 教授 今井 龍一



教室からの近況報告としまして、今年度の学部新入生は81名、大学院新入生は23名です。コロナ禍のため、春学期はオンライン授業が中心となりましたが、秋学期は対面授業の実施できる科目も増えました。オンライン授業を開始してもう2年が経とうとしており、教員・学生ともにオンラインの利点を活かした賢い授業運営の経験知を得ることができました。対面授業に戻ってもこの経験知を活かせるように検討して参ります。

就職は今年度も好調です。一方、インターンシップはコロナ禍の情勢により中止になるなど、学生も思うように活動ができない状況

もありました。そのような中で法士会の開催・支援によるキャリアデザインセミナーの開催や基礎ゼミナールでの講義は学生達の貴重な機会となりました。ありがとうございました。

当学科として、大学院進学率の向上が重要課題となっています。セミナーや講義の機会にて、法士会の皆様からも是非とも在校生に様々なアドバイスを賜りたく存じます。

今後も法士会の皆様とも緊密に連携を図って、業界の宝となる卒業生を輩出していけるよう取り組んで参りますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

コンクリート材料研究室

都市環境デザイン工学科 コンクリート材料研究室 教授 溝渕 利明



今のコンクリート材料研究室は、前任者の小林正几先生の退職に伴い、私が2001年に赴任してちょうど20年になります。これまでに約220人の学生が私の研究室から巣立っていきました（そのうち、約40人が修士課程に進学しています）。博士は、これまで3人（うち2人は論文博士）で、現在博士取得に向けて頑張っている学生（いずれも社会人です）が5人います。

私の研究テーマは“コンクリートの一生を考える”で、コンクリートの製造から構造物の更新までの材料、施工、維持管理を研究テーマとしています。現在研究テーマとして力を入れているのは、コンクリートの若材齢時の体積変化に伴うひび割れ（温度、自己収縮、乾燥収縮、クリープ等が要因となるひび

割れ）の発生メカニズム及びひび割れ発生後の進展メカニズムについての研究と、コンクリート構造物の劣化状況を複数の非破壊検査手法を用いて機械学習による自動総合診断が行える技術開発です。大学に赴任するまでは、約17年間建設会社に勤務しており、在職中に培ったノウハウや現場で求められていた技術を研究テーマ選定の基として、これまで現場に直結する研究テーマを数多く扱ってきました。これからも現場で役立つことができる研究を進めていきたいと思っています。

私も六十歳を超えて、在職期間も段々少なくなってきましたが、これからもコンクリート愛を持った学生を育てていきたいと思っています。

法政大学 理系同窓会ホームページ

<http://133.25.196.100/joomla3605/index.php>

法政大学 デザイン工学部

都市環境デザイン工学科 同窓会（法士会）ホームページ

https://civil.ws.hosei.ac.jp/wp/shinro_tokuchou/alumni_association

活躍する卒業生紹介

荒川技研工業株式会社 荒川 創 (1998年院修了)



私は1998年に大学院を卒業後、三井共同建設コンサルタント株式会社に就職しました。ここでは河川計画に関わる仕事に5年ほど従事し、様々な社会経験をさせていただきました。その後父が興した現在の会社(荒川技研工業株式会社)に転職しました。

弊社は金属製品の製造業で、主に建築分野や店舗・商業施設等の内装に使われるワイヤーシステムを開発、製造、販売する会社です。普段は建築や内装設計者との接点が多いですが、最近では、建築物や土木構造物の外構にも使われているワイヤー手摺と呼ばれるものも主力製品で、土木関係の方にも関わる機会も増えてきています。景観保全と安全性両立の観点から多くの採用実績があります。

また、当社のワイヤーを固定する機能「アラカワグリップ」を利用し、絵画などを吊るピクチャーハンギングシステムは、日本の美術館だけでなく、メトロポリタン美術館(アメリカ)やエルミタージュ美術館(ロシア)などでも採用されています。

当社のモットーは「ないものを創る」からはじまる「協創」です。当社の経験・技術を活用しながら世の中をワクワクさせるような何かと一緒に創り出すことを夢見ています。ギャラリーも併設しているショールームが表参道にありますので興味ある方はぜひ遊びに来てください。法土会のネットワークで互いに新しい可能性が広がることを願っています。



当社のワイヤー手摺を採用したテラス

八千代エンジニアリング株式会社 植田大造 (2000年院修了)



2000年に大学院を修了し、八千代エンジニアリング株式会社に入社して22年目になります。入社後12年ほど河川分野の技術者として計画や設計等の業務に従事し、その後開発部門と経営企画部門を経て、現在は開発部門に戻り新規事業創出を担当しております。

法政大学で学んだ土木は、社会の基盤として人々の暮らしや産業を支える「縁の下の力持ち」の役割がありますが、昨今は急速な社会の変化や技術革新に伴って、その役割が変わりつつあると感じます。今やまちづくりの目指すものは、人や地球にとっての「幸福=well-being」であり、そのために社会インフラがどうあるべきか?といった議論がされるようになりました。例えばwell-beingの要素の一つとして「健

康」をテーマに、健康維持・増進に寄与するまちを考えることや、「環境」をテーマにゼロカーボンなまちを考えるといった具合です。

社会の課題が複雑に絡み合っている中で、社会インフラだけで解決できるものは限定的であるため、エネルギーといった生活インフラや人間及び産業活動を考慮して最適解を見出すことが必要です。そのため様々な分野の知見が求められるようになっており、異なるバックグラウンドを持つメンバーと仕事を進めています。その中で土木の知見や社会インフラが持つ重要性を感じるがよくあります。

社会インフラのあり方を改めて考え、持続可能な社会づくりに少しでも貢献できればと思います。

キャリアデザインセミナー

「第10回 卒業生と学生の意見交換会」の開催報告

卒業生と学生の意見交換会は、これから就職活動を迎える学部3年生および修士1年生を対象として、「就職活動や進学」について考えるきっかけ作りとして、大学と法土会とが共催で毎年開催しており、今回令和3年10月7日（木）の開催で記念すべき10回目を迎えました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から初めてZoomを使ったリモートにて開催しましたが、今回は2年ぶりに対面形式で開催（一部の卒業生はWEB参加）することができました。

平日開催であったにも関わらず、建設業12社、コンサルタント14社、官公庁関連5団体、その他（鉄道・道路・建

設資材・システムほか）16社、WEB参加3社から、総勢56名の卒業生に参加していただきました。

内容は、第一部：社会に出て数年の卒業生4人と内定者1名の5名によるパネルディスカッション、第二部：各グループで教室に分かれての個別意見交換会、の二部構成としました。今年はこれまでよりも第二部に時間配分のウェイトを高く配分しました

今回も大変有意義であったとの感想を得られ、学生の就職活動の貴重な機会としてもらえるよう今後も継続して開催したいと思います。

理事 高橋 寛（1998年院修了）

◆第一部 パネルディスカッションの様子



◆第二部 意見交換会（対面・WEBのハイブリッド）



編集後記

❖ コロナ禍が続き遠い過去のようですが、今年度は何といても夏の東京2020オリンピック・パラリンピック大会です。個人的にはパラリンピックのチケットが当たっていたため無観客は残念でした。普段目にするののないパラ競技、特に車いすバスケット、ラグビー、バドミントン、ボッチャなどは、純粋に競技として楽しみ感動しました。

一方で、開催都市の一行政職員としては、大会まで目まぐるしく状況が変わる中、世紀の大イベントを運営したという経験が、このコロナ禍でも活かしているのではと実感しています。しかし、インフラの整備、管理は長期間の地道な努力の積み重ねであるので、そこは忘れずにいたいものです。

法土会理事会も普段はオンラインが当たり前となっています。移動がなく機動的でよい反面、やはり対面の良さもあり寂しく思います。早く平穏な日常が戻ることを願うばかりです。

理事 辻 裕樹（1999年院修了）

❖ 2017年よりリクルーターを務めており、“コロナ前”は、入社試験を受験する前の学生さんと対面でお話しし、社内の様子、仕事内容等について説明していました。ところが、新型コロナウイルスの蔓延によりWEB会議やメールのみのコミュニケーションが多くなりました。学生さんと会社のミスマッチを本当に防いでいるのか不安になることがある一方、時間や場所の制約を受けず気軽に連絡をとって非常に便利で、迅速な対応がとり易いと感じています。

しかし、10月に開催されたキャリアデザインセミナー「卒業生と学生の意見交換会」で久しぶりに学生さんや卒業生の皆様と対面でお会いし、やはり直接会って話せるって楽しいなど、思いました。

このような状況だからこそ、卒業生同士の繋がりを大事にできたらと感じています。法土会報が卒業生同士の繋ぎの一助になれば幸いです。

理事 平澤 江梨（2008年院修了）